

医療ルネサンス No.7237 Q&A 新型コロナウイルス 6/6

# デマ信じててしまう恐れ

「お湯を飲みなさい。新

型コロナウイルスが死ぬから」。2月下旬、川崎市の会社員女性(48)は、母からそう聞いた。母は知人から聞いたという。根拠のない話だと知っていた女性には、「まさか母がデマを信じるなんて」と驚いた。

このデマは、主にメールやSNSで広がった。「26〜27度で死滅する」というものもある。厚生労働省の「新型コロナウイルスに関するQ&A」によると、熱に弱いのが、70度以上で一定時間の加熱が必要という。

大阪大教授(社会心理学)の三浦麻子さんは「ウイルスは目に見えず、よく分からないので不安が膨らむ。何か目に見える確証が欲しいと思う、もっとも正しい情報に飛びつきやすくなる」と背景を説明する。

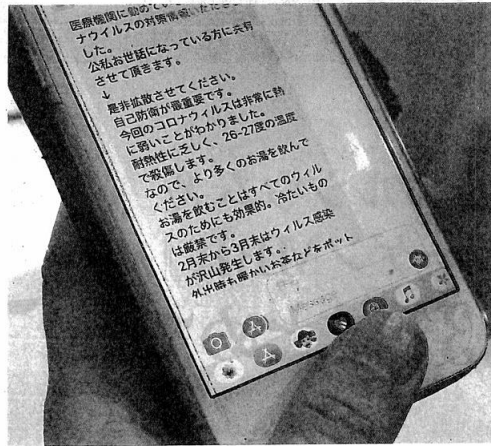
デマに踊らされないよう「デマとは、どうすればよ

いか。

筑波大准教授(認知心理学)の上市秀雄さんは「出典を明記していない情報源をシャットアウトするのも一つの方法」と助言する。人間は時間がたつと、情報自体は覚えていても、「どこから得たか」は忘れてしまいがちという。「根拠が乏しい情報を信じて行動しかねない」と、上市さんは注意を促す。

また、今回の新型コロナウイルスのように不安が強い状態で、命に危険が及ぶようなリスクに関する情報に接すると、正しいかどうかを感情的に判断してしまいがち

くなるという。健康情報の見極め方に詳しい島根大教授の大野智さんは、「今は、誰もが、普段なら選ばないような行動をとったりする状況にある。ぜひ一度、立ち止まって、自分が冷静に物事を判断できているかどうかを確かめてほしい」と



新型コロナウイルスに関するデマ情報が書かれたメールが拡散している

呼びかける。厚生省は、先のQ&Aをウェブサイトに掲載し、最新情報を提供している。新聞やテレビでも連日、最新の情報が報道されている。「せきエチケット」「手洗いや手指のアルコール消毒」など、根拠のある予防策も取り上げられている。しかし、もっとも大事な情報が抜け落ちているという意見もある。

同志社大教授(リスク心理学)の中谷内一也さんは「外出から戻った後の手洗いを励行するなど、一人一人が予防のための行動を積み重ねることが、感染のリスクを下げることにつながる。そんな基本姿勢を広めることが感染拡大を防ぐ一歩だ」と指摘する。

新型コロナウイルスとの闘いは続く。それぞれの地域や家庭で改めて、有効な対策をおさらいして、日々の暮らしで徹底したい。(新型コロナウイルス取材班) (次は「意思決定・思い」を支える) (す)

## くらし 家庭